

第2回	台東区都市計画マスタープラン策定委員会 会議録
日時	平成28年10月14日（金）午前10時～午後12時05分
場所	台東区役所10階 研修室
出席者	<p>【委員長】野澤委員</p> <p>【委員】池邊委員、中島委員、茅野委員、松本委員、松田委員、梅澤委員、本間委員、伴委員、高柳委員</p> <p>【事務局】望月課長、村上係長、藤田主事</p>
議事	○地域別整備方針について
配付資料	<p>台東区都市計画マスタープラン策定委員会委員名簿</p> <p>台東区都市計画マスタープラン策定委員会設置要綱</p> <p>第1回都市計画マスタープラン策定委員会議事録（案）</p> <p>資料1：都市計画マスタープラン策定に向けたスケジュール</p> <p>資料2-1：地域別特性及び課題</p> <p>資料2-2：現行計画における地域別整備方針</p> <p>資料3：地域別カルテ及び区内全域参考図</p> <p>資料4：台東区の将来都市像に関する意識調査について</p> <p>台東区長期総合計画</p> <p>台東区行政資料集</p> <p>台東区都市計画マスタープラン（現行）</p> <p>台東区都市計画図</p>
会議内容	
<p>1. 開会（省略）</p> <p>2. 委員長挨拶</p> <p>【委員長】前回第1回より2ヶ月が経ち、今回から実質的に中身の議論に入っていくことになる。本日の主な議題は地域別の整備方針について、12時までどうぞよろしくお願ひしたい。</p> <p>3. 出席状況及び定足数の報告</p> <p>【事務局】定数11名のうち、10名が出席している。従って、委員の2分の1以上出席されているため本委員会は成立していることを報告する。 （資料の確認）</p> <p>【委員長】傍聴者はないか。</p> <p>【事務局】傍聴者はない。</p> <p>4. 議事</p> <p>（1） 第1回都市計画マスタープラン策定委員会議事録について</p> <p>【事務局】本日机上に配布している「第1回都市計画マスタープラン策定委員会議事録（案）」は、第1回都市計画マスタープラン策定委員会資料とあわせて、ホームページでの公表を予定している。内容をご確認の上、ご指摘等あれば10月28日金曜日までに事務局へご連絡いただきたい。なお、公表時には個人名を伏せた形での公表となる。また公表の時期としては、11月上旬を予定している。</p>	

【委員 長】個々の発言の個人名は伏せるが、出席者として名前は記載される。

(2) 今後の進め方について

【事務局】(資料1 説明)

【委員 長】まずはスケジュール変更について、議事の進め方含めご意見、ご質問をお願いしたい。

【委員 長】委員会の回数が増えて、じっくり時間をかけて検討できると感じるが、見た目ほど時間はない。スケジュールについてはお認めいただいたということで次の議題に進める。

(3) 地域別整備方針について

【委員 長】地域別方針については事務局からの地域の特性及び課題についての説明の後、地域ごとに議論していただきたい。まずは谷中地域より議論を進めるので、谷中地域の特性・課題について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】(資料2-1 及び2-2、資料3の谷中地域該当部分を説明)

【委員 長】それでは谷中地域の整備の方針について、ご意見、ご質問をお聞きしたい。まずは、地元の委員より地元の感覚をお伝えいただけるとよい。

【委員】地域分けについて、池之端三丁目は谷中地区まちづくり協議会に入っているため、できれば上野地域ではなく、谷中地域に入れていただきたい。

谷中は、台東区のなかでも特徴のある地域である。まちづくり協議会で長年調査したなかでは、できるだけ今のまちの姿を変えずに、インフラを整備し安心安全なまちにしたいというのが地元の主な声となっている。よって、新築ではなくリノベーションがメインとなっている。直近の問題では、補助第92号線が撤廃され、規制が外れ高い建物が可能になってしまうことである。台東区地区整備課でも谷中まちづくり方針の素案を都市計画マスタープランと並行して検討しているので、整合をお願いしたい。

【委員 長】地域分けについては、現行のマスタープランから意図的にこのようになっている。他の計画との整合があるのか。

【事務局】まちのルールづくりや地区計画の対象に池之端三丁目が入っているのであれば、マスタープランでの地域を変えることは可能である。

【委員】既存の区分けでも構わない。地域の中で、通り一本離れて性格が異なる地域が混在していることを踏まえた上で、一律に地域のイメージを限定しなければよいのではないか。グラデーショナルに扱えるとよい。池之端一～三丁目は性格的に谷中地域に似ているので、できればそこまで含めて考えてほしい。

【委員】池之端は小学校区等から考えても上野とは異質である。

【委員 長】地域区分ではっきり線を引く意味はそれほどない。重なり合っていてもよい。

【事務局】現行計画でもグラデーショナルがある。池之端一・二丁目を谷中に入れるのか、描き方で区別するのか今後ご相談したい。

【委員 長】今のまちの姿をできるだけ変えないで、安心安全にしたいという地元の要望についてはどうか。

【委員】上野文化の杜新構想実行委員会では、芸術文化の地域として世界に発信する計画が進んでいる。文化が根付いている地域として、根津や千駄木とともに非常に大事な地域であり、上野公園にアクセスする経路として整備が必要である。歴史や文化を残しながら、地域の特性をどのように引き出すかがキーポイントである。古い建物を残し活かしてい

くこと、谷根千を活かすことが必要だと、内閣官房からも言われている。

【委員】今の谷中を守るといって、放っておけるわけではない。建築協定や歴史まちづくり法等を使って、残せればと感じている。ただ放っておいては変わってしまうだろう。

【委員長】地元として、幹線道路沿いのマンションは問題になっているのか。

【委員】言問通り沿いは仕方ないと思っている。補助第 92 号線沿線は都市計画道路が外れたときにどうなるか関心がある。上野公園を通り、幅員が広いところ狭いところそれぞれある。

【委員】言問通り、不忍通りも今後マンションが建つ可能性はある。

【委員】資料 2-1 の図の三崎坂建築協定の位置は間違いではないか。

【委員長】密集事業がかかると、現代風の建物に建て替わるのを、台東区以外でもあちこちで見ている。そのあたりのアイデアはないか。

【事務局】防災面からは、不燃化が目的のため堅い建物が望ましいとなる。木を活かしながら、木造でも耐火にする方法はある。行政がどう誘導できるかはこれからだが、方向性として目標を示すことの可能性はある。

【委員】コンセンサスができれば景観計画等に具体的に入れたり、作業中の地区計画に入れたりすることは考えられる。地域によって、適正な敷地面積が異なるので、やるとしたら相当細かくやらないといけない。

【委員長】即地的かつ部分的に見ていかないとできないだろう。

【委員】全部そのまま残す、というのは基本的に無理だろう。優良で残すべき建物とそうでないものを選別する方向が望ましい。空地ができれば延焼を防ぐ対策ができる。住民要望に全て対応するとすると防災面がおろそかになる懸念がある。

【伴委員】消防水利がなく、火がついたら全部燃えてしまう地域がある。最低限必要な消防活動道路をつくらざるをえない。丁寧に説明しながら進めたい。

【委員】身近な生活道路を残したいという要望と相反する意見となる。根岸の手法を谷中では検討できないか。

【委員】根岸ほどの幅員のある道路を入れるのは難しい。

【委員】協議会の防災部会でも、二項道路をすべて広げる必要はないという話をしている。拠点をつくって、ホースや貯水槽等の設備的なもので補いたい。

【委員長】水利から 130m の円に入らずホースも入らない、いわゆる消防活動困難区域が残っており、潰していく必要がある。

資料 2-2 「現行計画における地域別整備方針」についても、内容を変えるべき等ご意見あればいただきたい。方向性は共有できていると思うが、事業に落とす時に難しい。

【委員】三崎坂建築協定については、中高層マンションが実際に建つ事案が起こった時に、三崎坂に一定の範囲で建築協定をかけた。何か建つ時はやりやすいが、何もない時に同じ手法は難しい。

【委員】区としては何か考えているのか。

【事務局】今の建築協定ベースにどう発展させるか、協議会のなかで検討したい。

【委員長】方針の内容は変えた方がよいか。

【委員】現行計画の地域整備の方針⑤の文章の「地域内交通の検討」は具体的には何を示すのか。

【委員】現行計画の本文に「みどりや歴史ある資源を結ぶ歩行者ネットワークの形成等により」とあるように、歩いて回ることをイメージしている。

【委員長】⑤の前半「歩いて暮らす」がかかっているということ。

【委員】観光客が増えて危ないのではないか。

- 【委員】 地区整備課にも、安全に歩ける地区として歩道の整備をお願いしている。
- 【委員長】 通過交通をどう排除するかの課題がある。
- 【委員】 地域整備の方針①には「文化」を追加して「歴史・文化・自然の中で～」としてはどうか。また方針③には「みどり」の観点を追加（豊富なみどり等）したい。
- 【委員長】 方針⑤の表現はもっとわかりやすく、「歩行者にやさしい」とわかるように書いてほしい。単に「地域内交通」ではコミュニティバスのことなのかと受け取ってしまう可能性もある。
- 【委員】 方針④の「供給」という表現は、公営住宅を造るようにも受け取れるので相応しくない。「維持・保全」としてはどうか。
- 【事務局】 現行計画本編に「ソーシャルミックス等の様々な世代の人が済む、住みやすい、住み続けられる多様な住まいと提供する」とあり、そこから集合住宅の供給となっている。
- 【委員】 実現する政策は何かあるのか。
- 【事務局】 現行計画の策定当時はワンルーム対策として、ファミリー向けを造ってほしいという要望や意図があった。
- 【委員長】 現在の需要を考え、「供給」以外の言葉を使ったほうがよい。
- 【委員】 谷根千として、観光客にあまり来てほしくない等の意見あるのか。
- 【委員】 特にお寺を中心に、観光地化反対の意見は多い。地元でもマナーをどうしようか検討している。多国語表記にして、ハードルを上げたほうがよいのではないかなど議論しているところである。実際には、外国人観光客はヨーロッパからの個人客が多く、それほど問題にはなっていない。むしろ日本人の団体客が最近では問題が多い。
- 【委員長】 引き続き浅草・中部地域の特性・課題について、事務局より説明をお願いします。
- 【事務局】 (資料2-1及び2-2、資料3の浅草・中部地域該当部分を説明)
- 【委員長】 浅草・中部地域の整備の方針について、ご意見、ご質問をお聞きしたい。まずは、地元委員より地元のご意見をお伺いしたい。
- 【委員】 浅草と中部地域という広い範囲が対象となり、地域の特色が異なるので、細分化していかないといけない。
- 中心部の浅草寺周辺では、浅草六区の塀だらけだったところを地区計画の認可をいただき、民間の土地だが採算に合うような建物ができたが、一方で放置自転車が増えている課題もある。また、(国家戦略)特区申請をするためにカフェテラスの試み等を行っている。更には、水辺の活用を区にもご協力いただきながらやっている。他区の事例では、日本橋の防災栈橋が活用され、10社ほどの船が入っていると聞いているが、台東区は一步遅れている状況で、これから進めていきたい。
- 最大の問題は観光バスであり、外国人観光客が一昨年の倍程度に増え、その分団体用観光バスも増えているのと同時に、無許可の小型の10～20人乗りのバスも増え、ルールを守らない事案も発生している。
- 地域南の雷門や駒形地域に関しては、住宅兼家内工業の集まったエリアであり、西浅草や松が谷も同様で、近年かっぱ橋の道具街も日本人、外国人問わず観光客に人気がある。古い家も多いので老朽化や防火についても課題である。
- 浅草通りは東京都のシンボルロードに指定され、歩道の整備は進んだが、他の地域から自転車で来た時に置き場がなく大きな問題となっている。自転車の課題は、地域全体に言えるが、浅草六区が一番ひどく、駐輪場をつくっても屋上や地下なので利用されづら

く放置自転車の増加につながっている。

【委員】新御徒町駅は浅草・中部地域としてはどういう扱いなのか。

【事務局】現行計画では、地域がゆるやかに重なっている表現のため、新御徒町駅の周辺は上野地域と重なっている。

【委員】地域が広すぎる印象がある。現行の整備方針図で丸く書いてあるところが本来の浅草である。新御徒町の方まで浅草という感覚はない。

【委員長】谷中地域の議論と同じで、一つの地域が一色になるわけではない。

【委員】観光バスの駐車場等の設置候補場所はあるのか。

【事務局】バスの乗り降りの場所を分散させようとして取り組んでいる。年明けには新しいルールと乗り降りの予約システムが稼働する予定である

【委員】上野地域の東側半分、昭和通り沿いは同じような性格であり、住居と商業で構成される地域が並んでいる。似た性質の地域が集まって、台東区の真ん中のエリアを形成している。

【事務局】重点地区は浅草等に絞っていく。

【委員】例えば、浅草と南部を分ける等、地域分けは都市マスの都合で変えられるのか。

【事務局】住宅マスタープランやみどりの基本計画は、都市マスの地域区分に合わせた経緯があり、都市マスが先行している。

【委員長】部分的に重なり合うなど、マスタープランとしてまとめる時に検討する。

【事務局】資料3p.37の地区類型の分布状況を見ていただくと、混在地区が区の中心にまとまっている。都市マスに特化した新たな地域割りも必要であれば考えられる。

【委員長】まちづくり組織の分布状況などはわかるのか。町内会は町丁目単位のまとまりなのか。

【事務局】資料3p.52に協議会区域図を載せている。町内会は旧町会なので取り組んでいる。

【委員長】行政的には区役所の出張所等が手掛かりになるだろう。まちづくり的な活動の観点や、都市の性質が似ているところをまとめたほうがよいのか、次の機会に議論してもらおう。

【委員】浅草周辺のバリアフリー化も課題となっている。3駅のつながりの改善など、オリンピックに向けて一番やりたいことである。

【委員】西浅草にタワーマンションが一棟建ったが、同じような計画が今後起きる可能性はあるのか。マスタープランとしては整合がとれているが、区としては、ああいう形での住宅供給でよいのか。

【事務局】現行都市マス p.25「土地利用方針図」をどうしていくべきか、議論したい。

【委員】「中・低層」という表現ではなく、望むべき市街地の姿を議論していかないと、同じ事態が起こる。

【委員】まとまった敷地としては、学校跡地にタワーマンションの可能性は有り得るかもしれない。

【事務局】大規模跡地の活用との関係としては、タワーマンションの計画は突然には起こらない。

【委員】共同建替えでは建つ可能性がある。

【委員長】何が起きるか想定ができないなか、高さの制限をどうすべきか議論が必要である。「中・高層」「中・低層」という表現は曖昧で、人によってイメージするものが違い、書いてある意味がない。他の地域でも同じ問題が起こっている。バランスをとりながら具体的に考える必要がある。

【委員】歴史的な地域は景観に配慮して、なるべく高い建物は建てないほうがよいが、普通の住宅地は建ててもよい地域もある。全部どこでも反対では生産性がないので、棲み分けが必要である。

- 【委員 長】重点地区から外れる一般住宅市街地の表現を安直にしておかないほうがよい。
- 【委員】重点地区の浅草寺に広がりを持たせて、境内からの眺望も考えた方がよい。資料2-1 p.4のまちづくりや市街地整備の動向・実績等の「浅草寺を中心とした景観形成の推進」の記載とつながる。
- 【委員】浅草寺の仲見世を眺望ポイントとして、浅草寺の後ろに建物が映り込まないように、他の歴史的建物の事例を参考に調べた経緯がある。何かルールを決めたいと進めていたが、こちらからの眺望はどうか、こちらからはと、360度すべてからの見え方を考慮することは難しく断念した。
- 【委員】撮影スポット的に決めればできるのではないか。
- 【委員 長】地方では、松本城や岡山の後楽園など、寺よりも周囲の建物を低くしようという規制をやっているところもある。土地活用の問題も一方ではあり、浅草寺の周りだけにするなど、バランスをとらないといけない。
- 【委員】現行計画の整備方針③「国際観光地浅草にふさわしい」とあるが、言葉のなかに浅草寺を中心とした文化をもう少し加えた方がよい。今は、観光客がたくさん来て、強気に出られるタイミングであるので、安売りするべきではない。日本人が見直さなかったところを、外国人が訪れている。格式高く、地域のレガシーとして何を獲得するかがかかっている。
- 中部地域をどうするかについては、江戸の街道などから地域取りの方向性を考えてもよい。
- 【委員】社寺の意向が強くまちに影響する実態があり、住民やまちづくり組織と必ずしも同じイメージを望んでいるわけではない。大地主でもあり影響力が大きく、観光客お断わりと言われては、どうしようもない。宗教上の観点からは、神様を上から覗くというのは忌み嫌う。時に、まちづくりと相対する考えも出てくる。
- 【委員 長】現行都市マスの整備方針では、中部地域の書き込みが抜けている。地域取りも含めて検討事項としてほしい。
- 【委員 長】引き続き根岸・入谷地域の特性・課題について、事務局より説明をお願いします。
- 【事務局】(資料2-1及び2-2、資料3の根岸・入谷地域該当部分を説明)
- 【委員 長】根岸・入谷地域の整備の方針について、ご意見、ご質問をお聞きしたい。まずは、地元委員より地元のご意見をお伺いしたい。
- 【委員】根岸は、谷中に近い特徴の残ったエリアとなっている。一方で、昭和通りを渡った入谷は、震災復興の区画整理により街路整備され、目立った特徴はなく中間的な部分となっている。根岸では、まちの雰囲気を残したいという意向はあるが、谷中ほどの結束はなく、新しく建つことを食い止めることはできていない。入谷地区では、工事中も含めて4箇所程マンションが新しく建ち、旧坂本小跡地どうするか、大規模用地の活用について区と協力しながらどうするか議論しているが、意見がまとまらない状況である。区としては、定期借地で民間開発を進めたいようだが、タワーマンションなどで人口が増えることを、区としてどう考えていくのか、意見を聞きたい。
- 【委員】共同化により建替えが起こると、紛争が起こり、規制すべきとなることもあるが、住民の入れ替えがないとただ高齢者が増え、古いストックが増える懸念もある。浅草の事例では、事業を優先した経緯もあり、どちらに行くべきか悩むところである。台東区の都市計画は、容積率等を決める権限は東京都にあるので、地区にあった地区計画でやるが、

実際に規制となると自分の家の建替えができない、などまとまらない。都市マスに曖昧でなくどう書いていくべきか考えたい。

【委員】必ずしも二者択一ではないはずである。つくり方によってはマンションにコミュニティのための施設を入れることもできる。タワーかそうではないか、で市街地像を描くわけではない。

【委員】港区や目黒区では条例で高さの制限を決めたような例もある。用途ごとでなく地域で区切るやり方でやっているところもある。地元できめ細かくやるか、区として決めてしまうか、どこの線で区切るかを決めるのは大変だが、やってしまえば一回でおしまいとできる利点もある。

【委員】規制することで効果があるのか、区にとってプラスなのかマイナスなのかまだわからない。

【委員】長年の価値が台無しになってしまうようなところに、規制をかけることについては反対意見はない。一方で、こちらのエリアでは建替えや開発できるとメリハリをつけるのがよい。全部自由ではなく、誰でもわかるやり方で規制とそうでない地域分けると、投資が増える地域もある。

【委員】高級住宅街では合意形成もとりやすいが、台東区の居住実態として色々な価値観の人がいる。当面は地区計画みたいなものでしかできないと感じている。

【委員】高層を建てていいところを決めてしまえば、低層の空中権を売るシステムが使えるのではという案も議論された。根岸・入谷はなんでもありなので、バラバラになっていて大変との実感がある。メリハリをつけるのがよい。

【委員】特色がないだけに大きな問題である。

【委員】人という切り口で、高層マンションと従来住民の課題は出ているか。

【委員】新たに地域に入ってくる人との断絶はあり、どこの誰かわからない恐怖感が抵抗感につながっているのではないか。都市計画としてのコミュニティ構成が問題をより大きくしている可能性があり、地域コミュニティへの参加を促すことも必要だろう。お祭りも多いので一つの目的として、まちに興味のない方ともコミュニケーションの促進を謳っていく必要がある。

【委員長】大事な視点であると思う。

【委員】コミュニケーションセンター等をつくり、そこにお年寄りが集うことから始まるとよい。マンションの1階に必ずそうした場所を設けるとするなどの工夫が必要だ。

【委員長】地域のたまり場をつくる。

【委員】水害の被害を受ける区域があるのではないか。

【委員】荒川が決壊した場合に5mの浸水被害のエリアがあり、その場合復旧には3週間程度かかる。国交省や近隣区と一緒に減災対策をやっている。上野や谷中に避難するハザードマップも作っているが、全員逃げられるのか議論がある。荒川区から台東区へ逃げる等の場合もあり、勧告準備のタイムラインを広域的に検討している。

【委員】入谷朝顔市のことは、意図的に除いているのか。江戸の商業文化の先駆けであり、海外からの注目度も高い。現行計画の整備方針からは、文化がないように見える。朝顔市は拠点となる場所がないから書いていないのか。

【委員】お祭りの3日間だけ業者が来るだけで、ふだん縁のものが何もなく、地元意識が少ない。神社のお祭りとは性格が少し違うという実態がある。

【委員】できれば文化資源として入れられるとよいのだが。

【委員】よその人がきてやるので、商業的なイベントである。

【委員長】 どこかでふれられるとよい。

【委員】 鶯谷駅周辺の整備が長年の大きな課題だが、なかなか進まず地元も諦めているところもある。これを一步進めるような方向を都市マスのなかでふれておけないか。

【委員】 駐輪場整備やEV整備が済み、まちづくり協議会の活動は現在休止中である。エリアとしては上野公園の北側なので、上野公園の整備と一緒にやっていくのがよいのか、環状3号線も整備計画がなくなったわけではないので、議論を受けながら考えたい。

【委員】 産業のことがまったく書いていない。入谷南は材木屋が集まっている。千束町などきめ細かく取り上げてもいい。また、坂本小跡地は、建物として残す価値も検討したほうがよいのではないか。

【委員】 区内に復興小学校が6つ残っている。学校の建物、土地利用含めてどうするべきか議論したい。

【委員長】 他区では潰しているところが、台東区には残っているということで、逆に資源になる。跡地にはいけないという議論ある。現行都市マスの整備方針①～⑤で必ずしもカバーできていない。鶯谷駅については地形が難しく、苦労は理解できる。

【委員】 たしかに、駅への言及が根岸に偏っていて、入谷について書かれていない。

【委員長】 引き続き上野地域の特性・課題について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】 (資料2-1及び2-2、資料3の上野地域該当部分を説明)

【委員長】 上野地域の整備の方針について、途中で次回に持ち越しとなるかもしれないが、ご意見、ご質問をお聞きしたい。まずは、地元委員より地元のご意見をお伺いしたい。

【委員】 駅前商店街であり、上野駅とともに発展してきた地域である。地方からの物資が上野駅に届き、駅前が発展して商業地となったが、物流が変わり昔の役割を終えて、上野公園の文化施設前の商業地となっている。そのなかで、人の流れがJR公園口から公園口に戻る流れとなっていることが最大の課題となっている。まちからもりへ、もりからまちへ、と回遊性の向上を目指している。

商業地は上野側からも秋葉原側からも発展して広がりつつある状況にあるが、蔵前通りや春日通りといった道路が川となって障壁となり断絶されることもある。中央通りの西と東では地価がまったく違う。昭和通りから西は上野の商店街だが、昭和通りを超えると、中部地域と似たエリアになっている。

住んでいる人がほぼいない完全な商業地であり、近年では地価が高騰し固定資産税や相続税が払えず、代替わりの時に手放すか、ビルに建て直し人に貸すしかないということで、生業を捨ててやめていくパターンが多い。チェーン店が増え、まちの均一化の悪循環が懸念される。

【委員】 御徒町東側では、道路の幅員は現状の範囲で十分であり、これ以上動かしたくないという意見が総意であるが、天然石やインターロッキングによる道路舗装や街路灯の新設等の質的向上や放置自転車、路上看板、商品陳列棚のはみ出し設置など、道路の快適性の阻害要因への対策強化が必要と考えている。

御徒町地域では、上野公園や上野地域とあわせて中核的な商業エリアと想定している。将来的には秋葉原や東上野と広域的な商圈を形成していくことを望んでいる。また、50年間使われていない旧変電所跡地に建物を建てる事による活用方法を期待しており、資料3地域別カルテ内のp.7「公共用地の活用可能性」の欄に「旧変電所跡地」を加えてほしい。

防災面では、地域全体として築 30 年以上の建物が多いことから、個々の地権者には耐震診断を受けてもらい、建て替えか耐震補強、リノベーションを行ってもらいたいと考えている。

個人的には上野駅の駅舎を歴史的建造物として、理想的には東京駅のように保存していくべきと考えている。一方、御徒町駅の駅前整備は完了し、これ以上の空間整備は不要との意見が多い。

【委員】 範囲はどの辺りなのか。

【委員】 御徒町駅周辺は地区計画があり、話が細かくなりがちである。商圈は上野と似ていて、ジュエリータウンとしての産業が盛んなことから、道路などをきれいにしようという意見が出る。アメ横とは少し性質や雰囲気が異なる。

【委員長】 春日通りは優先整備路線に指定されている。

【委員】 拡幅が計画されているが、アメ横側の拡幅で、御徒町側はそのままの予定である。

【委員】 細街路が多く、建物そのものも古い。将来何年後の整備になるかわからず、老朽化が進んでいる。

【委員】 土地基盤が小さいので、敷地整序型で空地をつくった。変電所跡地はつくばエクスプレスのトンネルがかかっているの、建物をどこまで建ててよいか調査中であり、広場としては使える。

【委員】 現行都市マスの整備方針④に関連して、上野公園の使い方に関わる公園口の整備もあり、上野駅前ではとくに正面がひどい課題もあり、これからも整備が続くので、駅前空間の活用について都市マスにしっかり書いた方がよい。

【委員】 高速道路が廃道になる可能性はあるのか。

【委員】 今すぐに廃線はないが、国も地元のまちづくりの動きは知っている。

【委員】 資料 3 p.5 空き家が東上野の沿線沿いに増えている。

【委員】 率ではなく実数でみているので、なんとも言えない。新陳代謝もあり、実際に増えているのかどうか、追跡調査も行っているの、結果を見て情報提供できればしたい。

【委員長】 昭和通りが境目になりそうだ。地域取り含めて今後議論したい。

次回、上野地域の残りとは北部地域、南部地域の議論をしたい。

(4) その他

【事務局】 次回の第 3 回委員会 12 月 27 日（水）午後 14 時～開催予定である。詳細は後日改めて連絡する。

5. 閉会（省略）

以上